

松陵

能代高等学校同窓会
事務局
能代高校内
能代市字高橋2-1
TEL 0185-54-2230
題字は神馬会長

新しい前庭構想の 具現化へ一歩前進

この度、県教育委員会、並びに県当局の特段のご理解により、バス停留所前の道路に面した南側の田んぼ四百七十一㎡が本校の校地となりました。限られた予算の中で今回の買収が成立した陰には同窓生諸氏の多大なご尽力があったことをご報告いたし、厚くお礼申し上げます。この土地の取得に伴い、百年先を見越した教育環境への整備に一步踏み出したことになりました。今後さまざまな整備計画がありますが、現在計画している主なものは次のとおりであります。



完成後の前庭鳥瞰図

土地の造成が完成した後、①自転車置き場の設置、②ロータリー

①の設置、③植樹などであり、また、現在あるもので移動する予定のものは、①校門、②自在の像、③時計台などであり、

この前庭完成時の状況は、下の鳥瞰図のとおりであります。現在の姿とは一変しいかにも学園らしい雰囲気になり、生徒は自在の像に迎えられ、朝日に輝く校章を見ながら登校することになると思います。大変すばらしいことであります。なお、この計画が実現するよう、現在教育委員会と県当局に

強く要望しておりますが、同窓生各位からもこれまで以上のご支援をお願いいたします。

秋田支部近況報告

藤本光男
(旧制十五期)

平成三年度の能代高校同窓会秋田支部総会は九月二十七日、秋田市弥高会館に於て開催されました。今年で第六回目を数えます。

秋田市ならびに南秋田郡、河辺郡在住の同窓生は八百を超えております。今年の出席会員百十二名、来賓として同窓会牛丸副会長、母校より椎名校長先生、佐藤真孝先生、また軟式野球部をお招きし、部長の渡部先生、監督京先生、コーチ藤沢先生にもご出席いただき、先ずは盛會裡に開催できました。

総会では、同総会発足以来の会長藤井睦夫氏が健康上の理由で勇退され、副会長伊勢正克氏が二代目会長に選ばれました。



(左) 藤井前会長 (右) 伊勢新会長

伊勢氏は法曹界の重鎮で、昭和五十六年から二年間、県弁護士会長、日弁連理事として活躍され、現在は秋田県地方労働委員会委員長、昨年には藍綬褒賞を受けられました。

ふりかえってみますと、同総会秋田支部の結成は伊勢新会長ら四人の弁護士の方を中心になり、名簿集めから、各期毎の幹事役との連絡など実質発起人として東奔西走され同窓会の設立をみたものです。

なお副会長には藤本光男(十五期)、佐藤進(新四期)両氏が再選、新たに安井貞三(新一期)、須藤満雄(新四期・県庁能高会々長)、藤田修子(新八期)の各氏が選ばれ、幹事長は加賀勝巳(新十二期)氏の留任となりました。

平成三年は、佐々木満氏の国務大臣総務庁長官拝命、加賀勝巳氏の県弁護士会長就任、そして統一地方選で秋田市議に安井貞三氏初当選など祝賀の趣旨をかめた総会でしたが、佐々木大臣が急病のため欠席されたことはまことに残念でした。

発足以来、毎回のように参加されユーマアをまじえた政局の話など、今年の期待も大きかっただけに大臣の欠席には会員一同一抹の不安と寂しさをおぼえたものです。

近況ですが、十一月五日海部内閣の総辞職にともなう任期終了で、参議院と党の幹部としての仕事を精力的にこなしております。病気の方も全快といつて

よく、ただ以前より酒席の回数を減らす程度で政治活動に差支えはありません。同窓会のみならずまにくれぐれもよろしくとの事でした。

病氣といえは県総務部長成田哲朗氏(新二期)も約十ヶ月にわたる闘病生活でしたが、現在は元気で総務部長待遇として県庁で活躍され、後任の総務部長には蓮沼光氏(新九期)が就任、農政部長須藤満雄氏(新四期)と県政の要として頑張っております。

県庁の幹部職員には同窓生が多く、また金融機関、経済界でも法曹界同様、同窓生の活躍が目立っております。母校の限らない発展と同窓各位のご健勝を祈って、秋田支部の近況報告と致します。
(平成三・十二・五記)

事務局より

●年会費二千元は、同封の払込通知票を用いて、払い込んで下さい。

●平成七年には、創立七十周年を迎えます。転居等で住所変更になつた方をご存知の方は、振替用紙裏面記入欄にお書き下さい。

県庁同窓会だより

県農政部長

須藤 満雄
(新制四期)



去る平成元年に三十五周年を迎えた我が県庁能高会は、県庁内に数ある同窓会の中でも、おそらく最高のチームワークを誇ると自負しております。

当会の大きな行事は年二回の会合です。年度初めには定期総会を、年明けには新年会を開催しますが、約二百名の会員のうちいつも八十名くらいが入れ代わり出席しています。

ゲストとして前総務庁長官の佐々木満先生をはじめ、同窓の県議会議員や市町村長もご招待します。単なる宴会ではなく、国政や地元の状態を教えていただくための、いわば「県職員勉強会」でもある訳です。しかし、勉強ばかりしても疲れますので、当然ながら話題は学生時代の思い出話や母校の近況に傾斜していきます。とりわけ甲子園の野球は会員共通の関心事のようです。今年度の総会に駆け付けてくれた椎名校長は野球部のことについて大変頼もしいお話しをしてくれましたので、我々OBの期待度もグンと高まり、気の早い会員の中には

「甲子園の募金を積み立てしようか」と言い、「深紅の大優勝旗、能代へ」の夢を追っている連中もおります。

ところで、毎年秋に秋田市で開催される能代山本会という情報交換の会があります。これは地元の市町村長や幹部と地元出身の県庁職員が合わせて百二十人も一堂に会して語り合う行事ですが、当会ではこの運営にも積極的にお手伝いをしております。この時は、能代高校出身者以外の方々も参加するのですが、推進母体はやはり県庁能高会なのです。当会の幹事諸君は忙しい仕事の合間をぬって諸連絡に奔走している訳ですが、これも母校と郷里の発展を願っているからです。



昔にもどって校歌を歌う

ふるさととは遠くにありて... という名文句ではありませんが、私は湯沢や東京に転動した時も母校と郷里を忘れたことはありませんでした。文武両道、どちらも日本一になるようにと願いながら、同僚たちと一杯やっている今日このごろです。

東京同窓会の近況報告

八柳 昭義
(新制八期)

寒さ厳しき折、同窓生皆々様にはますますご健勝の事とお慶び申し上げます。

能代高校東京同窓会も「東京同窓会」と改称してから今年で十周年になりました。これもひとえに同窓生の皆様のご支援ご協力の賜物と感謝致しております。今後ともより一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。さて十周年を迎えた東京同窓会の近況を報告致します。

東京同窓会は現在、年一回総会を開催し会報を発行すること、五年毎に会員名簿を発行する事を主な活動としております。



恩師を囲んで

総会には毎回二名の恩師の先生をご招待しております。その他工業、北高、商業高校の在京同窓会の方々をご招待し、親交を深めております。

又、総会に先立ち講演会を催し、各界で活躍している同窓生に講師をお願いしております。平成3年度の総会は十周年記念の総会として十月五日に開催しましたが、記念行事の一つとして今年三月に卒業した新卒者の在京者激励会を行いました。

初めての試みでしたが学校当局に新卒者への連絡等でご協力戴き、お陰様で三十名の新卒者と学校から担任の先生が出席し、総会に先立って学校側との懇談会も催しました。新卒者も久し振りに能代弁をしゃべれたのか和気あいあいの催しとなり、続いて開催された総会も若い方々の参加で盛会の内に終了する事が出来ました。

東京同窓会の会員数は現在一三八〇名ですが居所不明の方が多く実際はこの数倍の在京者がいるものと予測しています。特に若い期の方々の居所が殆ど判らず、今後の課題となっており、この解決策として「新卒在京者激励会」を企画したのですが、今後継続したいと思っておりますので、学校、同窓会、PTAの皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

当会の運営は各期幹事による幹事会が運営一切を行い、幹事の中から会長以下の役員を選出し、会の運営に当たっております。幹事会は二カ月ごとに開催しており、会の運営事項を協議すると共に親睦を図っております。最後にになりましたが、今年度は役員改選の年となり、平成三

年十月の総会から新役員が会の運営に当たる事になりましたのでご報告致します。今後とも同窓生の皆様のご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

能代高校東京同窓会 新役員

- 顧問 腰山 巳代治 (旧 二)
- 顧問 板倉 創造 (旧 三)
- 顧問 後藤 典二 (旧 四)
- 会長 小林 肇 (旧 十九)
- 副会長 近藤 誠 (旧 十六)
- 同 太田 勝治 (新 十二)
- 同 菅原 渉 (新 二十一)
- 会計監事 村井 克自 (新 四)
- 事務局長 八柳 昭義 (新 八)
- 会報編集長 杉崎 孝雄 (新 八)

幹事会は従来通りにて運営されます。

末筆ながら皆様のご後益々のご健勝をお祈り申し上げます。

事務局 千一六四 東京都中野区中央五-七-一

八柳昭義(新八期生)
事務局長
能代高校東京同窓会
事務局長

卒業して

四十年

続 隆

(新制三期)

能代高校第三期生(通算二期生)卒業四十周年記念同校友会が平成三年八月十七日に柳町ブラザで開催されました。

恩師五名、同期生六十七名。計七十二名の参加者数でした。同期生の中には既に定年退職され、第二の人生を歩んでおられる方も多数おられます。

十年前の卒業三十周年記念同期会は昭和五十六年八月十四日に開かれ、恩師九名、同期生九十名、計九十九名が柳町金勇に参集しました。

今回は六十名をこえればと思っていたので数の上では満足出来る参加者数でした。

担任とか、授業に多く出て下された恩師十八名にご案内を差しあげましたが、残念ながら大半の先生が老齢に加えて健康の不安さから出席をお願い出来ませんでした。

その中から、佐々木辰雄先生(国語)のご返信をご紹介します。

へ〇雑

(原文のまゝ)

- 杉の香の匂ふ校舎を巣立ちたる健児諸君よ四十年経しとや
- 樽子山なつかに残きグラウンドの桜並木は今に残れる
- 新制の三期生なる御身達すこやかにあれいついまでも
- 病む妻を看取りし吾も入院しベット並べて三歳すぎたり



祝賀会に集うオールドボーイ達

首都圏を含み、県外から参加した同期生の強い熱情で、地元同期生はあおられて、会は大盛況でした。

私達は昭和二十年四月に現在の能代市役所の所にあった旧湊城第一小学校の校舎に入學しました。というのは前年の十九年二月に樽子山の校舎が全焼したからです。秋田県立能代中学校入學です。そしてその年八月に終戦を迎えました。二十三年三月十日に樽子山の再建なった新校舎に移転するまで約三年、その古い校舎で過ごしました。そして二十三年四月に新學制によりまして秋田県立能代南高等学校校生徒となりました。

昭和二十年には一九〇名位の入學者だったと思います。しかし終戦後の混乱から中退者約二十名也、二十三年三月に能代南高等学校併設中学校の資格で卒業した二十四名の方達で、その時機に二五〇名位になりましたが、二十三年四月には新しく新制中学校卒業生(尋常高等科第二学年終了)プラス新制中学校第三学年終了(二十名近く)を迎えまして、新制高校生となりました。

現在の同期会名簿は生存者一六八名、死亡者八名、計一七六名(転校した人も同期生となっております)となっております。その中、十八名の同期生の現任所・消息がわかりません。みなさん元気に頑張っておられることと思えます。

人生はドラマであり、人生は一つの旅であります。中学校、高校時代六カ年間をいつまでも楽しい思い出として残してゆきたいと思っております。気持ちちは青く若く、まだまだ未完成、未熟で、そして若い若いと思っっている中に、平成四年は、なんと私達同期生にとりまして還暦の年となりました。初心にかえって、努力しなればと考えている今日この頃です。

四十年振り 女子制服改定

平成四年度に入學する生徒から新しい制服を着用させることにしました。数年前から、夏季のジャンパースカートは暑苦しい、という声

が数多く出ておりました。平成三年六月にアンケート調査を行ったところ、生徒、保護者ともに大多数が改正を望んでいることがわかりました。七月に、制服検討委員会を発足させ、校内はもとより、専門家の意見も聞いて、名門能代高校の女子生徒にふさわしい制服を検討してききました。その結果、暑苦しさの解消、本校の伝統・校風の発揚、地域性と環境への適応、などを基本方針としました。



をた 制服用生 新着

この方針をもとに、九月に大

バルセロナオリンピックを 目指して

鈴木 裕美子 (新制三十一期)

一九七八年に母校を卒業させていただき、早くも十五年の月日が経とうとしています。当時学力よりも体力が優っていた私は放課後一人で野山を駆け巡るなど変な生徒でした。スキー部顧問の小栗先生や高橋一成先生などには、何処の大学にも合格出来なしたろうと大変御心配をいただきました。しかし不思議にもなぜか、日大に進むことが出来、又スキー部入部が許されました。そのことが、現在私が自転車競技選手となりました。即ちスキー部を二年でクビになって放り出された所を自転車部が拾ってくださった訳です。それから足掛け十三年間自転車競技を通して

手制服メーカー四社によるデザインコンペを行ないました。その結果、ハナエ・モリ・スクールジュエンスのデザインを基本的に採用することにしました。その後、デザイナー及び取扱い業者、秋田ヨット服株式会社と話し合いをもち、決定した制服が上の写真であります。ブレザーにベスト付き、そしてブラウスにはスクールカラーのスコットタイ付き、ポックススカートであります。

知性と清潔感を強調し、ポリーッシュな感じを持たせた制服で誇りをもって着用できるものがあります。



バルセロナへ

前回のソウルオリンピック予選での橋本聖子さんとの試合はそのなかでも特別でした。現在も選手活動はその時以上に充実して続いております。91年東京国際ロードレース東京大会では2位になり全日本選手権ロードレースでは優勝することができました。若い後輩達も何人か一緒に頑張っております。来年には是非とも私を含めてオリンピックの出場は全員で！と気合を入れています。

私は、昭和十九年四月に旧制能代中学に入學し、昭和二十年四月の学制改革により能代南高校第三学年に編入、二十九年三月に卒業という、戦中から戦後にかけての教育を受けた一人です。中学、高校を通じて体操競技部に所属し、伝統ある能中体操競技部の特訓の結果、戦前に成し遂げられた諸先輩の全国制覇の偉業を、戦後再び勝ちとることが出来ました。能中魂を全国に響かせたという喜びは、私の高校時代の最高の思い出です。

能中入学のころは戦争が激しくて、私たち一年生も勉強はそこそこ、飛行場の草むしりや防空壕掘りに日々を過す状態でした。したがって本格的に体操の練習に入ったのは中学二年、八月十五日の終戦の日から少し経ってからでした。小学生の頃から鉄棒が好きだった私は、上級生の勧誘により同級生の十人程と一緒に入部しました。練習は予想以上に厳しく、放課後三時半から夜の七時半ごろまで。日曜日も午前から午後までと、それこそ月火水木金の練習の連続でした。夏の屋外の練習では、暑くなった鉄棒で大車輪をぐるぐる廻ると、すぐに手の皮がむけてしまいました。冬は冬で水のように冷たい鉄棒を炭火で温めてから練習に入るといった具合でしたので、一緒に入った友達は半分以上も退部していききました。

私は涙を流しながらもこのスパルタ訓練についていったことで、中学三年の時に、第一回国

民体育大会の代表選手となることが出来ました。その後体操選手としてオリンピック金メダル獲得に至る切っ掛けはここにあったと言えます。



野 喬 (新制二期)

第一回国体は近畿地方で行われましたが、能代中学からはのちにヘルシキオリンピックで活躍された鍋谷先輩をはじめ四人が出場し、個人選手権の第一位から第三位までを独占することが出来ました。私の場合は、中学三年で総合二位、四年の石川県国体で二位、学

の信念で頑張った者が、目標を達成し得たのだと思います。さて、現在のわが国の教育は進学一辺倒の傾向が強く、とくに進学校とされるいわゆる高校は殆んど、各種の試合の決勝に勝ち残ることは出来ない現状です。母校能代高校も例外ではないと思いますが、何とかして勉強も運動も、他に抜け出てほしいと期待するのは、同窓生の偽らざる心情だと思えます。

若い在学生にとつては、今こそ、全力を尽くすべき絶好の時期です。たゆまぬチャレンジ精神を持って、どうか頑張ってくださいと、心から念願しております。

軟式野球部 東北大会 二年連続優勝

第三回東北地区高校軟式野球大会決勝が、十一月二十二日秋田市営八橋球場で行われ、能代高校が弘前工業を1-0で下し、昨年の花巻での第2回大会につき二連覇を果たした。

今シーズンはファームで七試合に登板、二十二回2/3を投げ、一勝一敗の成績でした。この後神戸で自主トレをし、年末には帰能の予定です。来シーズンは、何としてもファームでのローテーション入り为目标。結果次第では一軍のマウンドもグッと近づくはず。今は調子が上向きで、試合内容もまとまりが出てきました。現在持っている球種は、ストリート・カーブ・S.F.F・フォークの四種。精神面の強化が今の課題です。とにかく、頑張るしかありません。皆さんの期待に応えられる様一生懸命努力しますので声援よろしくお願いします。

今年こそ 一軍定着を 高橋 功一 (新制四十二期) オールイン

能代高校・沢田は直球、弘前工業・石岡は緩急をつけたカーブと、それぞれが持ち味を出して白熱した投手戦。8回表、無死から四球で出塁した鎌田がすかさず二盗をきめ、送りバントで三塁に進み、畠山が投前したたきつけるゴロの間に生還し、無安打で決勝点をあげた。この1点を沢田の無安打無得点の好投で守りきり2年連続2度目の優勝を飾った。

Score table for Softball tournament: 能代高校 00000000, 弘前工業 00000000, Final 0100, 01

東北大会優勝記念スナップ (Group photo of the team) 黒沢尻工 00000000, 能代高校 70000100x, 8